HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	城戸幡太郎先生著作・論文目録：城戸幡太郎先生卒寿記念
Author(s)	鈴木秀一; 廣川和市
Citation	北海道大學教育學部紀要, 44, 91-109
Issue Date	1984-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29278
Type	departmental bulletin paper
File Information	44_P91-109.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

城戸幡太郎先生著作・論文目録

——城戸幡太郎先生卒寿記念——

Bibliography of Emeritas professor Mantaro Kido

〔００１〕「聯想及び想像の民族的研究——主としてト筮発達の方面より観たる考察——」『心理研究』第六号第一二巻第二冊（1917）

〔００２〕「既刊『心理叢書』に対する疑問及び批評」『心理研究』第六八号一二巻第二冊（1917）

〔００３〕「心理学に於ける民族的研究の方法について——聯想及び想像の民族的研究，その２——」『心理研究』第七一号第一二巻第五冊（(1917）

〔００４〕「私の疑問及び批評に対する御教示を謝す——桑田芳蔵氏「城戸君の批評に答ふ」に対して——」『心理研究』第七二号第十二巻第六冊（(1917）

〔００５〕石川謙共著「教科及び教科書の品等より観たる徳川時代の教育の態度（上）」『心理研究』第七二号第十二巻第六冊（(1917）

〔００６〕石川謙共著「教科及び教科書の品等より観たる徳川時代における教育の態度（二）」『心理研究』第七三号第一冊，第七四号第一三巻第二冊（(1917）

〔００７〕「労力と体力との関係に関する研究の方法について」『心理研究』第七五号，第一三巻第三冊（(1918）

〔００８〕「村瀬氏によりて遺されたる研究問題」『心理研究』第七五号，第一二巻第三冊，(1918年）

〔００９〕石川謙共著「教科及び教科書の品等より観たる徳川時代に於ける教育の態度（三）『心理研究』第八三号，第一六巻第五冊（1918年）

〔０１０〕「児童の神に対する態度の発達」『児童研究所紀要』第三巻（1918年）

〔０１１〕「児童の考えた男女の意味とその発達」『児童研究所紀要』第三巻（1919年）

〔０１２〕松本亦太郎，増田惟茂共著『書き方の分析的研究』（心理叢書第８，９，10）（心理学研究会，1919年）

〔０１３〕「文化の改造と心理学」『心理研究』第一〇〇号，第一七巻第四冊（1920年）

〔０１４〕「一般能力の仮定について」（一）『哲学雑誌』第三五巻，第四〇一号（1920年）

〔０１５〕「ト筮の起源聯想の形式」『心理研究』第一〇三号，第一八巻第一冊（1920年）

〔０１６〕「一般能力の仮定について」（二）（完結）『哲学雑誌』第三五巻，第四〇二号，(1920年）

〔０１７〕「ト筮の起原聯想の形式」『心理研究』第一〇四号，第一八巻第二冊（(1920年）

〔０１８〕「トーテミズム成立の条件について——ト筮の起原と聯想の形式」（その三）『心理研究』第一〇五号，第一八巻第三冊（1920年）

〔０１９〕「トーテミズム成立の条件について——ト筮の起原と聯想の形式——」（その四），『心理研究』第一〇六号，第一八巻第四冊（1920年）

〔０２０〕(訳書)『ナトルプ・心理学概要』(大村論文叢書第13編)(大村書店, 1921年)
〔０２１〕「トーテミズム成立の条件について(完)――ト笠の起原及び聯想の形式――」(その五)『心理研究』第一〇九号, 第一九巻第一冊(1921年)
〔０２２〕「教育の対象としての女性」『心理研究』第一一四号, 第一九巻第六冊(1921年)
〔０２３〕「教育の対象としての女性」『心理研究』第一一五号, 第二〇巻第一冊(1921年)
〔０２４〕「精神検査に於ける能力評価の標準について」『心理研究』第一二四号, 第二一巻第四冊(1922年)
〔０２５〕「女神と子産神との信仰について」『心理研究』第一二七号, 第二二巻第一冊, (1922年)
〔０２６〕「女神と子産神との信仰について」(承前)『心理研究』第一二八号, 第二二巻第二冊(1922年)
〔０２７〕「ラッセル氏の心理学説を評す」『哲学雑誌』第四二八号, 第三七巻(1922年)
〔０２８〕「政治家と草花との品等」『心理研究』第一三一号, 第二三巻第一冊(1922年)
〔０２９〕「ライプチッヒ消息」『心理研究』第一三三号, 第二三巻第二冊(1923年)
〔０３０〕「ベルリンの応用心理学会」『心理研究』第一三四号, 第二三巻第二冊(1923年)
〔０３１〕「ライプチッヒ大学心理学研究室のクリスマス」『心理研究』第一三六号, 第二三巻第四冊(1923年)
〔０３２〕「ライプチッヒの心理学会と現代独逸心理学の傾向」『日本心理学雑誌』第三号, 第一巻第三冊(1923年)
〔０３３〕「心理学的認識の原理」『哲学雑誌』第四五四号, 第三九巻(1924年11月)
〔０３４〕「表現的心理学の方法について」『日本心理学雑誌』第九号, 第三巻第一冊(1925年)
〔０３５〕「新カント学派としてのパウル・ナトルプの心理学について」『日本心理学雑誌』第一〇号, 第三巻第二冊(1925年)
〔０３６〕「歴史的現実性と心理学」『思想』第四三号, (1925年)
〔０３７〕『文化と個性と教育』(文教書院, 1925年)
〔０３８〕『心理学の問題』(岩波書店, 1926年)
〔０３９〕「形態心理学の形態」『心理研究』第一巻第一輯(1926年)
〔０４０〕「リヴアーズ『心理学と政治』」『心理学研究』第一巻第二・三輯(1926年)
〔０４１〕「社會学的認識に於ける説明と理解と批判」『社會学雑誌』第二十八號(1926年)
〔０４２〕「色及び音の調和に対する感情の現はれ方」『心理学研究』一巻第四輯(1926年)
〔０４３〕「松本亦太郎『智能心理学』」『心理学研究』第一巻第五輯(1926年)
〔０４４〕「三木清『パスカルに於ける人間の研究』」『心理学研究』第一巻第五輯(1926年)
〔０４５〕「オイケンの哲学と現代の心理学及び教育学」『心理学研究』第一巻第五輯(1926年)
〔０４６〕「児童に於ける特殊なる智能の構造」『心理学研究』第一巻第六輯(1926年)
〔０４７〕「楢崎浅太郎『心理学概論一巻』」『心理学研究』第一巻第六輯(1926年)
〔０４８〕「精神と人間と文化――留岡君の批評に答ふ――」『心理学研究』第二巻第一輯, (1927年)
〔０４９〕「知覚に於ける形態の表象と関係の判断」『心理学研究』第二巻第二輯(1927年)
〔０５０〕「国語の文字的表現と音声的表現」『心理学研究』第二巻第三輯(1927年)
〔０５１〕「知覚の構造と其の法則性について」『『心理学研究』第二巻第五輯(1927年)

〔０５２〕「心理学と時間の問題（J-Volkelt,M.Sturt)」『心理学研究』第二巻第五輯（1927年）
〔０５３〕「婦人職業の社会的意味」『心理学研究』第二巻第六輯（1927年）
〔０５４〕「ロシアの民族性に関する研究」『心理学研究』第二巻第六輯（1927年）
〔０５５〕山下俊郎・波多野完治共著「ロシアの哲学及び心理学」『心理学研究』第二巻第一輯（1927年）
〔０５６〕「ウチッツ『性格学』」『心理学研究』第二巻第一輯（1927年）
〔０５７〕「ベーン『教育学的認識批判』」『心理学研究』第二巻第一輯（1927年）
〔０５８〕「朱君毅『現代中国人物之地理教育与職業的分布』」『心理学研究』第二巻第一輯（1927年）
〔０５９〕田辺元，黒田亮，横山松三郎，高木貞二，増田惟茂共編「シンポジューム・感覚の概念に就いて」『心理学研究』第二巻第三輯（1927年）
〔０６０〕「増田惟茂氏著『実験心理学序説』を読みて」『心理学研究』第二巻第三輯（1927年）
〔０６１〕「批評の辯，答辯の解」『心理学研究』第二巻第四輯（1927年）
〔０６２〕「バウムガルデン『民族の職業適性』」『心理学研究』第二巻第六輯（1927年）
〔０６３〕「ブーゼマン『発達的律動の表現としての子供の言語』」『心理学研究』第三巻第一輯（1928年）
〔０６４〕「芸術形態と人間形態」『思想』第八〇号（1928年）
〔０６５〕「思考心理学と世界観の心理学」『心理学研究』第三巻第三輯（1928年）
〔０６６〕「神と命（古代日本民族の言霊信仰について）」『心理学研究』第三巻第五輯（1928年）
〔０６７〕「逝けるマクス・シエーラーと来るべき心理学の問題」『心理学研究』第三巻第五輯（1928年）
〔０６８〕「実践的判断と疑惑的方法――カント倫理学についての一省察――」『哲学雑誌』第四三巻第五〇〇号（1928年）
〔０６９〕「心理学的実験としての共同発生法」（日本心理学会第１回大会報告、1928年４月７日発表）　要旨，日本心理学会編『心理学論文集１』（岩波書店，1928年）
〔０７０〕『子供と国語』（日本両親再教育協会編，子供研究講座第５巻）（先進社，1929年）
〔０７１〕「マドンナの芸術に表現された宗教意識の分析」『心理学研究』第四巻第一輯（1929年）
〔０７２〕「間違えた『心理学史』と取違へた『現代の心理学』」『心理学研究』第四巻第一輯（1929年）
〔０７３〕「国語学に於ける右翼小児病」『心理学研究』第四巻第一輯（1929年）
〔０７４〕「ブレンターノ学派の感情論と国語の副詞について」『心理学研究』第四巻第四輯（1929年）
〔０７５〕「国語の表現と神話の解釈――日本神話に於ける唯物史観的世界観の表現――」『心理学研究』第四巻第五輯（1929年）
〔０７６〕「土田杏村氏の『国文学の哲学的研究』について」『心理学研究』第四巻第五輯，（1929年）
〔０７７〕「チザルツ『精神科学としての文学史』」『心理学研究』第四巻第五輯（1929年）
〔０７８〕「デンプ『業と憎としての世界史・一つの比較文化哲学』」『心理学研究』第四巻第五輯（1929年）

〔０７９〕「スリクター『北米的産業における労働者政策の変遷」『心理学研究』第四巻第六輯（1929年）
〔０８０〕「ソロキン及びチンメルマン『農民の政治的態度』」『心理学研究』第四巻第六輯（1929年）
〔０８１〕「産業と心理学の合理化」『心理学研究』第四巻第六輯（1929年）
〔０８２〕「形態説と表現説」（日本心理学会第２回大会発表，1929年４月４日，於京都帝国大学）要旨，日本心理学会編『心理学論文集２』（岩波書店，1929年）
〔０８３〕「日本語の原始形態」（日本心理学会第２回大会発表，1929年４月５日，於京都帝国大学）要旨，日本心理学会編『心理学論文集２』（岩波書店，（1929年）
〔０８４〕『古代日本人の世界観・日本の言語と神話』（岩波書店，1930年）
〔０８５〕故今井貢共著「数型についての実験的研究」『心理学研究』第五巻第一輯（1930年）
〔０８６〕「土田氏の答弁に対する編輯者としての弁解」『心理学研究』第五巻第一輯（1930年）
〔０８７〕波多野完治共著「裁縫技能と評価能力――和洋女子専門学校よりの労作――」『心理学研究』第五巻第二輯（1930年）
〔０８８〕「芸術的理解力の mental test と趣味的判断力の mental test」『心理学研究』第五巻第二輯（1930年）
〔０８９〕波多野完治共著「裁縫技能と評価能力――和洋女子専門学校よりの労作――」『心理学研究』第五巻第四輯（1930年）
〔０９０〕「形態心理学の誤謬」『哲学雑誌』第四五巻第五二三号，（1930年）
〔０９１〕「京城帝国大学法文学会編集『哲学論文集』を読みて」『心理学研究』第五巻第六輯（1930年）
〔０９２〕『心理学概説』（岩波書店，1931年）
〔０９３〕『哲学的人間学』（岩波講座哲学第８　体系的研究１）（岩波書店，1931年）
〔０９４〕『言語と教育』（岩波講座教育科学第16冊）（岩波書店，1931年）
〔０９５〕「大学と教育」『岩波講座教育科学第20冊』（岩波書店，1931年）
〔０９６〕「社会的教育学」『岩波講座教育科学第20冊』（岩波書店1931年）
〔０９７〕「或る形態心理学者の誤解」『哲学雑誌』第四六巻第五二七号（1931年）
〔０９８〕「ライグベルト『表現心理学と実践教育学』」『心理学研究』第六巻第一輯（1931年）
〔０９９〕「ピーターゼン『教育的性格学の基本問題』」『心理学研究』第六巻第一輯（1931年）
〔１００〕「ボーベルタッハ『筆蹟学は信頼されるか』」『心理学研究』第六巻第一輯（1931年）
〔１０１〕松本金寿共著「小学校児童に於ける助詞の表現の発達」東京高等師範学校心理学教室編『教育心理研究』第六巻第三号（1931年）
〔１０２〕松本金寿共著「小学校児童に於ける助詞表現の発達」『教育心理研究』第六巻第五号（1931年）
〔１０３〕松本金寿共著「小学校児童に於ける助詞表現の発達」『教育心理研究』第六巻第六号（1931年）
〔１０４〕「表現と技巧――正木君の批評に答ふ――」『心理学研究』第六巻第四輯（1931年）
〔１０５〕「児童語の表現形態について」『教育心理研究』第六巻第九号（1931年）
〔１０６〕「児童語の表現形態について」『教育心理研究』第六巻第十号（1931年）
〔１０７〕「独逸における二，三の『教育科学論』について」『岩波講座教育科学』月報付録『教

育』第一号（1931年）

〔１０８〕「仮名遣の歴史主義と実用主義について」『岩波講座教育科学』月報付録『教育』第二号（1931年）

〔１０９〕「表現の意識と精神的動作・日本心理学史の序曲を奏する一つのラプソディー」松本亦太郎博士在職25年記念『心理学及芸術の研究』上巻（改造社，1931年）

〔１１０〕「刺戟の構造と表現の性格」（日本心理学会第３回大会発表，1931年４月３日，於東京帝国大学）要旨，日本心理学会編『心理軸論文集３』（岩波書店，1931年）

〔１１１〕『現代心理学の主要問題』（同文書院，1932年）

〔１１２〕波多野完治共著「知識と技能」『教育心理研究』第七巻第五号（1932年）

〔１１３〕「平岡伴一氏編『国字国語問題文献目録』を読みて」『岩波講座教育科学』月報附録『教育』第一三号（1932年）

〔１１４〕「ブレンターノの文化心理学より観たるマルキシズムとフアシズムとの哲学」『心理学研究』第七巻第六輯（1932年）

〔１１５〕「日本思想と生活心理学」法政大学日本精神史学会編『日本精神史論纂』第一巻（岩波書店，1932年）

〔１１６〕澤田慶輔共著「形容詞の変味変化について」法政大学日本精神史学会編『日本精神史論纂』第一巻（岩波書店，1932年）

〔１１７〕『表現学序説』（国語科学講座第９）（明治書院，1933年）

〔１１８〕「新『小学国語読本』の批判――新小学国語読本巻一を読みて」『教育』第一巻 第一号（1933年）

〔１１９〕「教育景観態」『教育』第一巻第三号（1933年）

〔１２０〕「ナチスのために罷免されたアウグスト・メッサー教授の教育学について」『教育』第一巻第四号（1933年）

〔１２１〕「仮名遣誤記調査」『教育』第一巻第六号（1933年）

〔１２２〕「故増田惟茂博士の生涯と学説――学説の発展について――」『心理学研究』第八巻第五輯（1933年）

〔１２３〕沢田慶輔共著「感性的形容詞に表現された生活感情の意味」（日本心理学会第４回大会発表，1933年４月19日，於東北帝国大学　）要旨，日本心理学会編『心理学論文集４』（岩波書店，1933年）

〔１２４〕井原正男共著「言語の教育的環境に就いて」（日本心理学会第４回大会発表，1933年年４月18日，於東北帝国大学　）要旨，日本心理学会編『心理学論文集４』（岩波書店，1933年）

〔１２５〕「国語の表現法と国民性」日本文化研究会編『日本精神研究第一輯日本精神論』（東洋書院，1934年）

〔１２６〕「表現の心理学」（一）『心理学研究』第九巻第一輯（1934年）

〔１２７〕井原正男共著「形態知覚の時間構造――表現の心理学（二）」『心理学研究』第九巻第三輯（1934年）

〔１２８〕「言語表現における意味の融通性と限定性」『松本亦太郎博士古稀記念論文集』『心理学研究』第九巻第五，六合輯（1934年）

〔１２９〕「改訂尋常小学修身書を読みて」『教育』第二巻第三号（1934年）

〔１３０〕「私学経営問題シンポジウム――教育なき学校」『教育』第二巻第八号（1934年）
〔１３１〕『国語表現学』（賢文館，1935年）
〔１３２〕松本金寿共著「我が国における心理学関係の文献蒐録について」『心理学研究』第一〇巻第一輯（1935年）
〔１３３〕井原正男共著「混色過程の分析」（一）『心理学研究』第一〇巻第五・六合輯（第一〇周年記念号）（1935年）
〔１３４〕「児童研究の歴史と問題」『教育』第三巻第四号（1935年）
〔１３５〕「政権と教権」『教育』第三巻第五号（1935年）
〔１３６〕「大石氏の考察法について」『教育』第三巻第六号（1935年）
〔１３７〕「形象と技術」『教育』第三巻第六号（1935年）
〔１３８〕「美術政策と美術教育」『教育』第三巻第七号（1935年）
〔１３９〕「意識の律動学と成形学について」（日本心理学会第５回大会発表，1935年４月１日，於東京文理科大学）要旨、日本心理学会編『心理学編文集５』（岩波書店，1935年）
〔１４０〕乾孝共著「書相学の実験的研究」（日本心理学会第５会大会発表，1935年月日記載なし，於東京文理科大学）要旨，日本心理学会編『心理学論文集５』（岩波書店，1935年）
〔１４１〕「教育者としての増田博士」『増田博士謝恩　最近心理学論文集』（岩波書店，1935年）
〔１４２〕「国語に表現された日本人の色彩感覚」法政大学日本精神史学会編『日本精神史論纂』第二巻（岩波書店，1935年）
〔１４３〕共編『教育学辞典』全５巻（岩波書店，1936年）
〔１４４〕『心理学史，上』（現代哲学全集第８巻）（日本評論社，1936年）
〔１４５〕「国語表現学」『岩波講座国語教育第２巻国語教育の学的機構』（岩波書店，1936年）
〔１４６〕篠目綾子共著「色彩の表現閾について――表現の心理学（三）――」『心理学研究』第一一巻第二輯（1936年）
〔１４７〕井原正男共著「言語の表現と解釈とについて――表現の心理学（四）――」『心理学研究』第一一巻第五輯（1936年）
〔１４８〕「保姆養成所の問題」『教育』第四巻第三号（1936年）
〔１４９〕「日本応用心理学大会の開催に就て」『教育』第四巻第五号（1936年）
〔１５０〕「第六九議会における平生文相の答弁について」『教育』第四巻第六号（1936年）
〔１５１〕「教育と映画」『教育』第四巻第一一号（1936年）
〔１５２〕「児童文化と放送教育」『教育』第四巻第一二号（1936年）
〔１５３〕「教育の科学的方法について」東京高等師範学校附属小学校初等教育研究会編『教育研究』第四四四号（1936年）
〔１５４〕「師範学校の改革案について」『教育』第五巻第五號（1937年５月）
〔１５５〕吉田正男共著「嗅覚における様相通有性について」『心理学研究』第一二巻第二輯（1937年）
〔１５６〕「源氏物語における性格表現の問題」『文学』第五巻第一〇号（1937年）
〔１５７〕「我等何をなすべきか」『保育問題研究』第一巻第一号（1937年）
〔１５８〕「フレーベルとオーウェン」『保育問題研究』第一巻第二号（1937年）
〔１５９〕「教育史の研究法」『教育』第五巻第一号（1937年）

〔１６０〕「教育改革運動の根本義」『教育』第五巻第二号（1937年）
〔１６１〕「教育的年令の問題」『教育』第五巻第三号（1937年）
〔１６２〕「中学校の改革案について」『教育』第五巻第四号（1937年）
〔１６３〕「教育立地論」『教育』第五巻第六号（1937年）
〔１６４〕「児童学と精神発達理論」『教育』第五巻第八号（1937年）
〔１６５〕「社会教育の系統化」『教育』第五巻第九号（1937年）
〔１６６〕「生活学校巡礼」『教育』第五巻一〇号（1937年）
〔１６７〕「日本諸学振興委員会は何をなすべきか」『教育』第五巻第一二号（1937年）
〔１６８〕「二つの現象形態について・精神物理学の問題を中心として」『速水博士還暦記念心理学哲学論文集』（岩波書店，1937年）
〔１６９〕井原正男，乾孝共著「混色過程の分析」（日本心理学会第６回大会発表，1937年８月24日，於京城帝国大学）要旨，日本心理学会編『心理学論文集６』（岩波書店，1938年）
〔１７０〕「生活技術としての国語」『文学』第六巻第一号（1938年）
〔１７１〕「保姆は子供に何を求むべきか」『保育問題研究』第二巻第二，三号（1938年）
〔１７２〕乾孝共著「混色過程の分析」（二）『心理学研究』第一三巻第一輯（1938年）
〔１７３〕「子供は保姆に何を求めているか」『保育問題研究』第二巻第四号（1938年）
〔１７４〕「農繁期託児所の問題」『保育問題研究』第二巻第八号（1938年）
〔１７５〕「利用の教育」『保育問題研究』第二巻第九号（1938年）
〔１７６〕「保姆と教養」『保育問題研究』第二巻第一〇号（1938年）
〔１７７〕「国民教育と幼児教育――幼稚園と託児所との問題――」『保育問題研究』第二巻第一二号（1938年）
〔１７８〕『保育問題講座保育学総論（一）」『保育問題研究』第二巻第一二号（1938年）
〔１７９〕「幼児生活の形態化とラジオ」『保育問題研究』第二巻第一二号（1938年）
〔１８０〕「児童の逆文字について」『心理学研究』第一三巻第六輯（1938年）
〔１８１〕「文化政策と外国語教育」『教育』第六巻第二号（1938年））
〔１８２〕「青年学校教育義務制実施案要綱について」『教育』第六巻第七号（1938年）
〔１８３〕「教育の寿命」『教育』第六巻第八号（1938年）
〔１８４〕「大学の自治について」『教育』第六巻九号（1938年）
〔１８５〕「『路傍の石』と『綴方教室』」『教育』第六巻第九号（1938年）
〔１８６〕「文化と生活様式」第六巻第一〇号（1938年）
〔１８７〕「師範学校改善案について」第六巻第一二号（1938年）
〔１８８〕『幼児教育論』（賢文館，1939年）
〔１８９〕『生活技術と教育文化』（賢文館，1939年）
〔１９０〕「保育問題講座保育学総論（二）」『保育問題研究』第三巻第一号（1939年）
〔１９１〕「保育問題講座保育学総論（三）」『保育問題研究』第三巻第二号（1939年）
〔１９２〕「保育問題講座幼児の言語教育」『保育問題研究』第三巻第七号（1939年）
〔１９３〕「形態心理学の問題」『中央公論』第五四年第四号，第六一九号（1939年）
〔１９４〕「意識の律動性に関する失権」『心理学研究』第一四巻第特輯（1939年）
〔１９５〕井原法洞共著「視覚空間と視覚時間との関係について」『心理学研究』第一四巻特輯

(1939年)

〔１９６〕大山茂生共著「児童の立体的成形の一研究」『心理学研究』第一四巻第四，五輯(1939年)

〔１９７〕井原法洞共著「或る犯行少年の行動分析と性格変化に関する一研究」『心理学研究』第一四巻第四，五輯（1939年）

〔１９８〕「研究の跡をかえりみて，我等の反省すべきこと」『保育問題研究』第三巻第九号(1939年)

〔１９９〕「文化新様式の創造」『思想』二〇九号（1939年）

〔２００〕「新東亜教育と東亜共同体」『教育』第七巻第一号（1939年）

〔２０１〕「幼児教育と国民教育」『教育』第七巻第二号（1939年）

〔２０２〕「遊具と子供の社会生活」『教育』第七巻第二号（1939年）

〔２０３〕「教科書問題の検討」『教育』第七巻第三号（1939年）

〔２０４〕「児童文化政策」『教育』第七巻第五号（1939年）

〔２０５〕「阿部重孝教授と日本の教育科学」『教育』第七巻第七号（1939年）

〔２０６〕「国民教育と教育科学運動」『教育』第七巻第一〇号（1939年）

〔２０７〕『民生教育の立場から』（西村書店，1940年）

〔２０８〕共編『石井亮一全集』３巻（石井亮一全集刊行会，1940年）

〔２０９〕「進学指導に対する心理学的考査の方法について」『心理学研究』第一五巻第一輯(1940年)

〔２１０〕井原法洞共著「或る反抗少女の行動分析と性格変化」『心理学研究』第一五巻第一輯（1940年）

〔２１１〕「幼児教育の本質と保姆の使命」『保育問題研究』第四巻第一号（1940年）

〔２１２〕「国民学校と綜合教授」『教育』第八巻第三号（1940年）

〔２１３〕「新体制の思想原理」『教育』第八巻第一〇号（1940年）

〔２１４〕「世界観と人間像」『教育』第九巻第九号（1941年）

〔２１５〕「生活科学と生活教育」『教育』第九巻第一〇号（1941年）

〔２１６〕「国防と女子教育」『教育』第九巻第一一号（1941年）

〔２１７〕「綜合切符と生活の錬成」『中央公論』第五七年第三号（六五五号）（1942年）

〔２１８〕「国土計画と教育政策」『教育』第一〇巻第一号（1942年）

〔２１９〕「東亜の新秩序と宗教政策」『教育』第一〇巻第三号（1942年）

〔２２０〕「健民運動と生活科学運動」『教育』第一〇巻第五号（1942年）

〔２２１〕「社会教育の計画化」『教育』第一一巻第三号（1943年）

〔２２２〕「『教育』一〇年を顧みて」『教育』第一一巻第四号（1943年）

〔２２３〕「戦ふ朝鮮の教育（上）」『教育』第一一巻第一一号（1943年）

〔２２４〕「戦ふ朝鮮の教育（下）」『教育』第一一巻第一二号（1943年）

〔２２５〕「動員計画と大学問題」『教育』第一二巻第一号（(1944年)

〔２２６〕「民主主義と日本の教育」大日本教育会編集『政治教育パンフレット』（第一輯）（印刷局，1945年12月）

〔２２７〕「新しい児童文化運動の展開」東京児童文化連盟『児童文化研究』」（1946年７月）

〔２２８〕「初等教育の将来」『季刊新児童文化』復刊第一冊（中央出版）（1946年８月）

〔２２９〕「国家的教育研究調査機構一　地方教育研究所設置の必要一」『文部時報』(1946年９月)
〔２３０〕「新日本の建設と職業教育」『職業指導』第十九巻第九，十月合併号（1946年10月）
〔２３１〕「青年学校の問題」『黄蜂』３号（1946年10月）
〔２３２〕『生活技術と教育文化』(万里閣，1946年)
〔２３３〕「民主国家と勤労精神」「學歩』1947年新年号
〔２３４〕『民主教育のありかた』(社会社，1947年６月)
〔２３５〕「教育の科学的研究」『教育科学』創刊号（教育科学研究会，同学社）(1947年７月)
〔２３６〕『精神科学的人間像』(前田出版社，1947年)
〔２３７〕「新制高等学校の実施について」『教育』第３号（世界評論社）(1948年４月号)
〔２３８〕「日本の教育は如何なる道をとるべきか」『思想の科学』VOL,３，№４（1948年４月号)
〔２３９〕「提案教員養成と大学教育に関するシンポジウム」『教育』第４号（1948年５月号)
〔２４０〕「児童生活と言語教育」『児童心理』1948年８月号
〔２４１〕「民主主義と児童観」『季刊新児童文化』第三冊（国民図書刊行会）(1948年10月)
〔２４２〕『教育科学的論説』(世界社，1948年)
〔２４３〕「日本に於けるＰＴＡ運動の意義」『生活学校』第三巻第三号（1948年)
〔２４４〕「ＰＴＡに寄せる言葉一ＰＴＡと教育委員会」『ＰＴＡ』第４号（1948年)
〔２４５〕「教育地理学の問題」『社会地理』第七号（1948年)
〔２４６〕「日本人の言語意識」『知識人』第一巻第一号（1948年)
〔２４７〕「関口泰提案『公務員法改正と教員組合』批判」『教育』第１０号（1948年)
〔２４８〕「大学教育の問題」『理想』第一八七号（1948年)
〔２４９〕「教育心理学と職業教育の問題」逓信省電務局電話課『電話叢書』第四号（日東出版社，1949年３月)
〔２５０〕「矯正保護と再犯防止」犯罪予防更正協会『太陽』創刊号（1949年８月)
〔２５１〕『新教育と視聴覚教育』(日本映画教育協会，1949年11月)
〔２５２〕「教科としての職業指導」『職業指導』第二二巻第一号（1949年)
〔２５３〕金子孫一，宮原誠一共著「新教育とＰＴＡ（鼎談)」『ＰＴＡ』第三巻第一号（1949年)
〔２５４〕「日本カリキュラム」『教育』第一二号（1949年)
〔２５５〕「民主主義教育論」『創造』第四号（1949年)
〔２５６〕「研究活動と生産教育」『教育建設』第三三号（1949年)
〔２５７〕「文化国家としての日本の教育政策」『教育公論』第四巻第八号（1949年)
〔２５８〕「生活カリキュラムとガイダンスの問題」『教育技術』第四巻第八号（1949年)
〔２５９〕「教育的性格の問題」『人間科学』第四号（1949年)
〔２６０〕『現代心理学・その問題史的考察』(評論社，1950年２月)
〔２６１〕「北大教育学部の構想」『北海教育評論』VOL,３，№７，1950年10月号
〔２６２〕『幼児の教育』(福村書店，1950年)
〔２６３〕『日本のカリキュラム』(評論社，1950年)
〔２６４〕共編『生産教育の技術』(小学館，1950年)

〔２６５〕「映画教育夢想曲」『キネマ旬報』第七三号（1950年）
〔２６６〕「私の映画評」『映画教室』第四巻第一号（1950年）
〔２６７〕「私の映画評」『映画教室』第四巻第三号（1950年）
〔２６８〕「教育におけるテストの意義」『児童心理』第四巻第三号（1950年）
〔２６９〕「いかに読むべきか」『図書教育』第二巻第三号（1950年）
〔２７０〕「生産教育の意義」『教育科学』第三〇号（1950年）
〔２７１〕「適応教育の限界」『児童心理と精神衛生』第一巻第一号（1950年）
〔２７２〕「生産による教育の改造」『教育技術』第五巻第四号（1950年）
〔２７３〕「新しい時代と児童の道徳」『児童心理』第四巻第八号（1950年）
〔２７４〕「民主主義と道徳教育」『六・三教室』第四巻第八号（1950年）
〔２７５〕「三つの提案から――シンポジューム『学力の問題』」『教育学研究』第一八巻第五号（1950年）
〔２７６〕「学校と産業」『技術と社会』（1951年12月）
〔２７７〕共編『体系教育心理学辞典』（岩崎書店，1951年）
〔２７８〕『現代児童文化講座』上巻，羽仁説子監修（双竜社，1951年）
〔２７９〕監修『新教育研究原語辞典』（文民教育協会，1951年）
〔２８０〕高木貞二共編『実験心理学提要』全３巻，（岩波書店，1951年）
〔２８１〕「生産教育と消費者教育」『家庭科教育』第二五巻第一号（1951年）
〔２８２〕「社会教育における職業教育」『社会教育』第六巻第二号（1951年）
〔２８３〕「日本経済の自立と職業指導」『職業指導』第二四巻第二号（1951年）
〔２８４〕「道徳教育の方法」『六・三教室』第五巻第二号（1951年）
〔２８５〕「校内放送のありかた」『放送教育』第五巻第一六号（1951年）
〔２８６〕「近代における直観教育の進歩」『教育技術』第六巻第四号（1951年）
依田新共著「正木正・続有恒共編『教育心理学実習　調査統計』を推薦す（書評）」
〔２８７〕『教育図書ニュース』第二〇号（1951年）
〔２８８〕「自信をもって当れ――自立日本の教育をきく」『教育技術』第六巻第八号（1951年）
〔２８９〕「私の構想――北海道開発計画と視聴覚教育――」『視聴覚教育』第五巻第七号（1951年）
〔２９０〕大田堯対談「教育科学運動・これまでこれから」『教育』第一号（1951年）
〔２９１〕森昭共著「民主的教育と能力別学級編成」『児童心理』第五巻第一一号（1951年）
〔２９２〕「義務教育終了時における学力の調査」文部省調査普及局統計課編『教育統計』第11号（1951年11月号）
〔２９３〕「義務教育終了時における学力の調査(2)」『教育統計』第12号，（1952年１月）
〔２９４〕「独立と新教育の理念」金子書房編集部編『新日本の教育建設』（金子書房，1952年１月）
〔２９５〕「生産教育のありかた」『信濃教育』1952年５月号
〔２９６〕「今後における日本教育のあり方」細谷恒夫編『日本教育の基本的課題』（同学社，1952年５月）
〔２９７〕「日本教育の課題」『教育評論』1952年６月臨時特集号
〔２９８〕「社会性を発達させる」『母のひろば』 102号（1952年11月）

〔２９９〕「(座談会) これからの社会に生きていくにはどれだけのまたどのような言語能力が必要か」『言語生活』第四号（1952年）
〔３００〕「中学校のカリキュラムと職業指導」『中学教育技術』第一巻第一〇号（1952年）
〔３０１〕「産業教育振興法の実施に当って」『文部時報』第八九三号（1952年）
〔３０２〕「独立後における日本教育」『教育技術』第七巻第三号（1952年）
〔３０３〕「高校家庭科の振興策（一)」『家庭科教育』第二六巻第八号（1952年）
〔３０４〕山本普共著「理科学力テストにおける北海道の特殊性」『北海道大学教育学部紀要』第一巻（1953年３月）
〔３０５〕「教育学部と教育心理学」『教育心理』ＶＯＬ，１，№１（1953年）
〔３０６〕「世界をつなぐ教育」『新しい学校』第五巻第一号（1953年）
〔３０７〕「生産教育の岐路」『職業指導』第二六巻第一号（1953年）
〔３０８〕「教育学の前進」『教育技術』第七巻第一一号（1953年）
〔３０９〕「教具論」『教育技術』第八巻第二号（1953年）
〔３１０〕「学力の問題」『教育心理学研究』第一巻第一号（1953年）
〔３１１〕「教師の研究活動の推進」『初等教育資料』第三七号（1953年）
〔３１２〕「無駄のない教育」『国民』第 626号（1953年）
〔３１３〕「選抜考査法の問題」『児童心理』第七巻第一二号（1953年）
〔３１４〕「生産教育の課題」『職業教育』1954年12月号
〔３１５〕「就学年令の問題――なぜ六才を就学年令としたか」『児童心理』第八巻第三号(1954年)
〔３１６〕「教育段階における高等学校の地位の研究（一)」『北海道大学教育学部紀要』第二号（1954年）
〔３１７〕「社会教育のありかた」『社会教育』第九巻第六号（1954年）
〔３１８〕「日本社会の発展と人材の養成」『文部時報』第九二七号（1954年）
〔３１９〕「教育の権利と義務」『放送教育』第九巻第七号（1954年）
〔３２０〕高倉新一郎共編『目で見る北海道史』(北方民生協会，1955年）
〔３２１〕「日本の国土開発と教育開発」『教育技術』第九巻第一四号（1955年）
〔３２２〕「学校図書館人に望む」『学校図書館』第五一号（1955年）
〔３２３〕「一九五五年の視聴覚教育界に望む」『視聴覚教育』第九巻第一号（1955年）
〔３２４〕「教育段階における高等学校の地位の研究」(二)『北海道大学教育学部紀要』第三号（1955年）
〔３２５〕「教育の中立性ということ」『思想』第三七四号（1955年）
〔３２６〕「僻地の学校と生活教材」『新しい教材』第三巻第八号（1955年）
〔３２７〕「シンポジアム教育心理学の在り方――調和への試み」続有恒編著『シンポジアム現代の教育心理学』(国土社，1956年４月）
〔３２８〕「現代の児童文化」波多野完治編『児童文化』(城戸幡太郎還暦記念第４巻）(国土社，1956年７月）
〔３２９〕「生活教育への要望」籠山京編『生活教育』(城戸幡太郎還暦記念第１巻）(国土社、1956年６月）
〔３３０〕「児童の福祉と教育」三木安正編『児童問題』(城戸幡太郎還暦記念第５巻）(国土社，

1956年 8 月）
〔３３１〕「教育科学の理念と操作」宗像誠也編『教育科学』（城戸幡太郎還暦記念第 7 巻）（国土社，1956年12月）
〔３３２〕「生産教育計画の構想」宮原誠一編『生産教育』（城戸幡太郎還暦記念第 2 巻）（国土社，1956年）
〔３３３〕「子供の生活の貧しさをどうするか」『婦人公論』第41第 1 号（1956年）
〔３３４〕「教育段階における高等学校の地位の研究（三）」『北海道大学教育学部紀要』第四号（1956年）
〔３３５〕「アジア民族主義と社会建設」『世界週報』第三七巻第四二号（1956年）
〔３３６〕「文化政策と社会教育」『社会教育』第一一巻第一〇号（1956年）
〔３３７〕「ソ連及中国における教育政策の動向」『教育学研究』第二三巻第五号（1956年）
〔３３８〕「アジアの文化交流と視聴覚教育」『視聴覚教育』第一〇巻第一一号（1956年）
〔３３９〕「アジアの民族主義と言語教育の問題」『ことばの教育』第一九巻第一号（1956年）
〔３４０〕「児童研究と実験学校」依田新編『児童心理』（城戸幡太郎還暦記念第 6 巻）（国土社，1957年）
〔３４１〕「総合技術教育について」『数学教室』No. 32（1957年）
〔３４２〕「教育政策と教育計画」三井透編『教育計画』（城戸幡太郎還暦記念第 3 巻）（国土社，1957年 4 月）
〔３４３〕「大学のカリキュラム改造――一般教育と専門教育の関係を問題として――」大学基準協会創立十周年記念論文編纂委員会編『新制大学の諸問題』（1957年）
〔３４４〕「学力調査から学校調査へ」『学校経営』第二巻第三号（1957年）
〔３４５〕「アジア・アフリカの開発と日本の教育」『教育』第七四号（1957年）
〔３４６〕「普通教育における総合技術教育の問題」『職業指導』第三〇巻第一〇号（1957年）
〔３４７〕「（座談会）技術革新とこれからの教育」『教育技術』第一二巻第八号（1957年）
〔３４８〕「人間教育の心理学的基礎」『児童心理』第一一巻第一〇号（1957年）
〔３４９〕「教具とは何か」『教育』第八〇号（1957年11月号）
〔３５０〕『心理学と教育』（国土社，1958年 9 月）
〔３５１〕「心理学における三つの存在命題について」（日本心理学会第22回大会発表，1958年 7 月　於慶応義塾大学）要旨『日本心理学会第22巻大会発表論文集』（1958年）
〔３５２〕「比較教育学の方法論」鈴木朝英編『比較教育』（城戸幡太郎還暦記念第 8 巻）国土社，1958年 6 月）
〔３５３〕共編『共立講座世界の教育』全10巻，（共立出版，1958年～1960年）
〔３５４〕「映画教育の思い出」『視聴覚教育』第一二巻第二号（1958年）
〔３５５〕「一九五八年に期待するもの」『教育』第85号，1958年 3 月号
〔３５６〕「科学技術教育の振興と中等学校産業教育の在り方」『職業指導』第三一巻第一号（1958年）
〔３５７〕「『戦前の教科研運動史』によせる」『教育』第八六号，1958年 4 月号
〔３５８〕「教師はどんな役割をになっているか」『教育技術』第一三巻第一号（1958年）
〔３５９〕「教師と言語政策――第九回全日本ローマ字教育研究協議会の指導講話」『ことばの教育』第二〇巻第一一号（1958年）

〔３６０〕「(座談会) 科学技術教育をめぐって」『文部時報』第九七四号 (1958年)
〔３６１〕「(座談会) 暗い谷間の頃の保母と子どもと研究者＝昭和６，７年から第二次世界大戦まで＝」『保育の友』1959年５月号
〔３６２〕「視聴覚教育の教材研究について」『視聴覚教育ニュース』No.457 臨時増刊 (1959年６月)
〔３６３〕「教育研究のありかた」『北海道教育』1959.oct. No. 8
〔３６４〕三宅和夫共著「社会科教育における学業不振児の問題――各教科教育法に関する教育心理学的研究Ⅴ――」『教育心理学研究』第６巻第４号 (1959年)
〔３６５〕「(シンポジウム提案) 教科の教育心理学的研究の問題と方法」『教育心理学研究』第６巻第３号 (1959年)
〔３６６〕「文化心理学の方法論――意味の座標転換について――」『中央大学大学部紀要』哲学科第六号 (1959年)
〔３６７〕「比較教育学から見た日本の教育問題」中央大学教育学研究会『教育学論集』第一集 (1959年)
〔３６８〕「未来のアジアと日本の教育」『教育』第 100号 (1959年５月号)
〔３６９〕「アジア・アフリカの教育問題」『アジア・アフリカの窓』第３号 (1960年４月)
「心理学における意味の座標転換」(日本心理学会第24回大会発表，1960年７月17日，
〔３７０〕於東京大学) 要旨，『日本心理学会第24回大会発表論文集』(1960年６月)
〔３７１〕「比較教育学のありかた」『教育学研究』第二七巻第一号 (1960年)
〔３７２〕「学術行政の民主化を――学術会議会員となって」『教育』第 111号 (1960年２月号)
〔３７３〕「視聴覚教育と視聴覚教材」『教育調査』第39号 (1960年)
〔３７４〕「マスメディアの教育的体制化について」『新しい教材』(1960年２月)
〔３７５〕「科学教育と道徳教育」『教育技術』1960年３月号
〔３７６〕「技術教育のあり方」『教育技術』1960年４月号
〔３７７〕「教育における作文の使命」『教育技術』1960年７月号
〔３７８〕「日本教育計画論」『学校経営』1960年９月号
〔３７９〕「世界における日本の教育――主として教育政策の面から――」『世界の教育講座』(1960年10月号)
〔３８０〕「青少年の文化指導」『月刊社会教育』第五巻第二号 (1961年)
〔３８１〕「教育心理学における文化の問題」『教育心理学研究』第九巻第一号 (1961年)
〔３８２〕Origin of japanese psychology and its development.
psychologia, VoL. 4. No. 1 1961
〔３８３〕「日本教育学会学力調査研究委員会報告」『教育学研究』第二八巻第三号 (1961年)
〔３８４〕「問題はここにある――視聴覚教育の基本的な問題をめぐって――」『視聴覚教育』(1961年３月号)
〔３８５〕「行動の価値体系について」(日本心理学会第25回大会発表，1961年８月２日，於早稲田大学) 要旨，『日本心理学会第25回大会発表論文集』(1961年７月)
〔３８６〕「大学の使命」『理想』第三三五号 (1961年)
〔３８７〕「学力ということ」日本教職員組合教育文化部『「学力」と文部省調査の問題点―中学校全国一斉学力調査反対資料第一部――』(日付なし，推定，1961年)

〔３８８〕「生活形成としての教育」原田實博士古稀記念教育学論文集編集委員会発行・編集『教育学論文集・人間形成の明日』（1961年11月）
〔３８９〕「これからの教育研究のありかた――臨床教育学の研究を提唱する――」『教育技術』
〔３９０〕1962年１月号
〔３９１〕「教育と創造性」『児童心理』1962年２月号
〔３９２〕「社会教育におけるテレビの役割」『社会教育』第一七巻第三号（1962年）
〔３９３〕「大学一般教育の組織と内容」『教育学研究』第二九巻第一号（1962年）
〔３９４〕「学力とは何か」『教育評論』1962年４月号
〔３９５〕「教育研究の体制と学会のありかた」『教育』第一四六号（1962年８月号）
〔３９６〕「科学者の創造性開発のための境界諸科学の統合」『日本の科学と技術』1962年８月号
〔３９７〕「人文社会科学振興と人間科学の問題」『教育学研究』第二九巻第四号（1962年）
〔３９８〕「学問の研究態勢と教科の指導組織」北海道民間教育団体連絡協議会編『現代教育の実践課題』（発行年月不詳，推定1960年代前半）
〔３９９〕『教育原理論』（国土社，1963年）
〔４００〕「教育心理学における交叉文化の問題」（日本教育心理学会第４回総会発表，1962年８月　於東北大学）要旨「教育心理学年報』第２集（1963年３月）
〔４０１〕「指導目標の設定とそれへのアプローチのしかた――人づくり政策と対決する学校の教育計画――」『北海教育評論』臨時増刊（1963年６月）
〔４０２〕「大学入試制度の問題点――一般論――」『教育学研究』第30巻第２号（1963年６月）
シンポジウム「現代教育と創造性の開発」（城戸幡太郎，時実利彦，井手則雄，恩田彰，細谷俊夫，司会波多野完治，1963年７月15日）城戸先生古稀祝賀記念実行委員会編『現代教育と創造性の開発――城戸幡太郎先生古稀記念会の記録』（1964年８月）
〔４０３〕「社会科の役割」『北海道社会科のひろば』第２号（1963年12月）
〔４０４〕「経験主義の哲学から教育主義の哲学へ」上田薫編『教育哲学の新生』（黎明書房，1964年12月）
〔４０５〕城戸幡太郎，砂沢喜代次対談「新しい教授学の成立をめざして」砂沢喜代次編『講座授業研究』別巻（明治図書，1964年）
〔４０６〕「日本心理学史考――第二次大戦の終るまで――」『東洋大学社会学部紀要』第４号（1964年）
〔４０７〕「教科としての教育心理学の研究法について――とくに教育の研究と教員の養成を問題として――」『教育心理学研究』第12巻第４号（1964年）
〔４０８〕「青少年と根性」『厚生』1965年３月号
〔４０９〕「創造的人間と創造的社会」（日本教育心理学会第７回総会発表，1965年10月９日，於東京学芸大学）要旨，『日本教育心理学会第７回総会発表論文集』（1965年10月）
〔４１０〕「現代と教師」『教育』第 191号（1966年１月号）
〔４１１〕「児童憲章への期待と反省」『月刊福祉』49巻５号（1966年）
〔４１２〕「就学と進学について」『いとし児』1966年10月号
〔４１３〕「幼児教育の本質」『保育問題研究』No. 136，（1967年１月）
〔４１４〕「精薄と能力」『精神薄弱児研究』1967年５月号

〔４１５〕城戸幡太郎，砂沢喜代次対談「教育における認識と実践の統一」砂沢喜代次編『講座子どもの思考構造』第Ⅴ巻（明治図書，1967年６月）
〔４１６〕「序文」正木正著『教育的叡知』（金子書房，1967年10月）
〔４１７〕「児童の発達と社会の発達」『教育』第 222号（1968年６月号）
〔４１８〕「大学における視聴覚教育」『大学視聴覚教育研究』７，（1968年６月）
〔４１９〕「精神薄弱児の判別」『精神薄弱児研究』1968年11月号
〔４２０〕「消えかけた火を吹きおこす夜寒かな」山田清人著『教育科学運動史』（国土社，1968年11月）
〔４２１〕『心理学問題史』（岩波書店，1968年12月）
〔４２２〕編著『現代教育研究６，教育課程の構造』（日本標準テスト研究会，1969年１月）
〔４２３〕「高等教育の教育課程――大学のカリキュラム――」城戸幡太郎編集主任『現代教育研究６，教育課程の構造』（日本標準テスト研究会，1969年１月）
〔４２４〕「幼児教育の役割」『基督教保育』第 266号（1969年１月）
〔４２５〕「大学と教養」『教育』第 235号（1969年５月号）
〔４２６〕「テレビと教育」『放送教育』1969年５月号）
〔４２７〕「勝田教育学の生成・発展」『教育』第 240号（1969年10月号）
〔４２８〕「大学と視聴覚教育」『視聴覚教育』1969年11月号
〔４２９〕「六・三・三制教育と幼児教育の重要性」『保育』1969年12月号
〔４３０〕「子どもを知る」『保育カリキュラム』1969年12月号
〔４３１〕「説明的文章の読み方」『児言研国語』No. 23（1970年１月）
〔４３２〕「社会と子ども」『教育』第 248号（1970年５月号）
〔４３３〕「児童憲章の現代的意義」『月刊福祉』54巻５号（1970年５月）
〔４３４〕『日本の教育計画』（喜寿祝賀記念出版）（国土社，1970年７月）
〔４３５〕『文化心理学の探究』（喜寿祝賀記念出版）（国土社，1970年８月）
〔４３６〕「宗像誠也と教育科学運動」『教育』第 251号（1970年８月号）
〔４３７〕「現代文化と日本の心理学」（日本心理学会第34会大会シンポジウム「日本心理学会の回顧と展望」提案，1970年８月28日，於東北大学）要旨『日本心理学会第34会大会発表論文集』（1971年）
〔４３８〕「平和と民主主義の教育のために――宗像誠也　その人と業績――」『国民教育』５号（1970年）
〔４３９〕「大学と視聴覚教育」『視聴覚教育』第24巻第９号 275号（1970年９月）
〔４４０〕「新しい人間像を」城戸幡太郎，金沢嘉市，平湯一仁編『強い子を育てる――アンチ・スパルタ教育』（子どもの文化研究所，1970年10月）
〔４４１〕「学習への用意」『保育の手帖』1970年11月号
〔４４２〕「幼児の生活環境と教育環境」『保育の手帖』1971年３月号
〔４４３〕「社会福祉研究法」『北星論集』８号（1971年３月）
〔４４４〕城戸幡太郎，砂沢喜代次編『教育科学の探究』（明治図書，1971年３月）
〔４４５〕「現代社会の教育要求」，「教育実践と教育科学」城戸幡太郎，砂沢喜代次編『教育科学の探究』（明治図書，1971年３月）
〔４４６〕「戦後教育改革の起点」『望星』1971年７月号

〔447〕「初等普通教育の理念を問い返す」,「レディネスの形成を」,「教師を中心とする教育環境の整備を」城戸幡太郎，金沢嘉市，八杉龍一，平井信義，乾孝共著『保育者への一つの指針』（フレーベル館，1971年7月）
〔448〕「心理・教育学」朝日新聞社編『わが道 III』（朝日新聞社，1971年7月）
〔449〕「教育改革の理念」『教育』第 266号（1971年8月増刊号）
〔450〕「『教育』二〇周年記念によせる」『教育』第 269号（1971年11月号）
〔451〕「〈城戸幡太郎先生にきく〉一般教育の理念について」（1971年）再録，堀尾輝久他著『教育と人間をめぐる対話』（新日本出版社，1977年）
〔452〕「真理と平和を希求する人間に」『子どもの文化』No. 24（1972年1月号）
〔453〕「個別化と個性化」『視聴覚教育』VoL.26, No. 1,（1972年1月号）
〔454〕「ヒューマニズムに立脚した文化創造」『子どもの文化』No. 25（1972年2月号）
〔455〕「私が歩んだ精薄教育の道」『精神薄弱児研究』 161号（1972年2月号）
〔456〕「戦後民主教育のめざしたもの」『労働法律旬報』 806号（1972年4月上旬号）
〔457〕「体育の遊技的性格」『新体育』VoL.42, No, 4（1972年4月号）
〔458〕「哲学から教育学へ——心理学を環として——」『科学と思想』No. 4,（1972年4月号）
〔459〕「教育工学のあり方——教育科学と教育工学——」『視聴覚教育』VoL.26. No. 4,（1972年4月号）
〔460〕「（インタビュー）人とことば・城戸幡太郎」『言語生活』No. 248,（1972年5月号）
〔461〕「能力とは何か——心理学・教育の立場から——」『教育評論』1972年7月号
〔462〕「保育問題研究の反省と希望」『季刊保育問題研究』40号（1972年8月）
〔463〕「ヒューマニズムを基盤とした文化の創造」『子どもの文化』No. 31(1972年8月号)
〔464〕「視聴覚教育と紙芝居」堀尾青史，稲庭桂子編『紙芝居・創造と教育性』（童心社，1972年11月）
〔465〕「子どもの発達と文化」『子どもの文化』No. 34（1972年11月号）
〔466〕「人間科学としての心理学」明星大学心理学研究室編『現代心理学論集——安倍三郎先生古稀記念論文集——』（明星大学心理学研究室，1972年）
〔467〕「〈心理・教育研究七〇年（1）教育研究にいきつくまで」『教育』第 285号（1973年1月号）
〔468〕「〈心理・教育研究七〇年（2）ドイツでの研究をひきさげて」『教育』第 286号（1973年2月号）
〔469〕「幼児に何をどう教えるか」一番ヶ瀬康子編『保育一元化の原理——子どもの全面発達をめざして——』（勁草書房，1973年3月）
〔470〕「〈心理・教育研究七〇年（3）言語教育への関心」『教育』第 288号（1973年4月号）
〔471〕「〈心理・教育研究七〇年（4）教育科学研究運動の出発」『教育』第 289号（1973年5月号）
〔472〕「〈心理・教育研究七〇年（5）教育改革をめざして」『教育』第 291号（1973年7月号）
〔473〕「教育と研究」『学士会会報』1973－III, No. 720.（1973年7月）
〔474〕「生きた教育を発見して——わたしはなぜ正則高校の校長になったのか——」正則学

院教職員組合編『高校生活』（労働旬報社，1973年７月）
〔４７５〕「〈心理・教育研究七〇年（６）教育内容研究の発展」『教育』第 292号（1973年８月号）
〔４７６〕「〈心理・教育研究七〇年（７）戦時体制のなかで」『教育』第 294号（1973年10月号）
〔４７７〕「序文」続有恒選集刊行委員会編『教育心理学の探究』（金子書房，1973年10月）
〔４７８〕「教育課程の自主編成をめざして」『正則の教育』17号（1973年10月）
〔４７９〕「〈心理・教育研究七〇年（８）「眠られぬ夜も明け初める鉄の窓」『教育』第 295号（1973年11月号）
〔４８０〕「〈心理・教育研究七〇年（９）「新教育を創り出す動き」『教育』第 298号，（1974年１月号）
〔４８１〕「教育科学研究の展望のもとに」『教育』No. 301.　（1974年４月号）
〔４８２〕「学校の役割と教育課程の編成」『国民教育』21号（1974年８月号）
〔４８３〕「私学の存在意義と教育課程の創造」『正則の教育』18号（1974年10月）
〔４８４〕「書評・国民教育研究所編『通信簿と教育評価』」『国民教育』24号（1975年５月）
〔４８５〕「日本の学校教育と私学」『教育評論』1975年６月号
〔４８６〕「新教育課程編成のために」近津経史著『高校教師』（労働旬報社，1975年７月）
〔４８７〕城戸幡太郎，海後宗臣，梅根悟，城丸章夫，司会坂元忠芳「座談会・今日の教育課程を考える」『国民教育』25号（1975年７月）
〔４８８〕「選択制について」『教育』第 322号（1975年11月号）
〔４８９〕城戸幡太郎，赤堀哲雄，宇野一，大田堯，司会浜田陽太郎，原俊之「シンポジウム大学入試改革の方向をさぐる」日本教育学会編『日本の教育を考える』（毎日新聞社，1975年12月）
〔４９０〕「学力と人格――楽しい学園を――」『国民教育』27号（1976年１月）
〔４９１〕「心に残る助言の数々」『児童心理』30巻３号（1976年３月）
〔４９２〕「いま教育実践・研究に問われているもの――学力実態調査の結果から――」『国民教育』29号（1976年７月）
〔４９３〕「学力を考える基本的視点」『国民教育』29号（1976年７月）
〔４９４〕「教育基本法制定の精神と現代的意義」『別冊国民教育①教育基本法』（労働旬報社，1977年３月）
〔４９５〕「留岡清男の教育研究と教育運動」『教育』第 342号（1977年４月号）
〔４９６〕「学習と映像」『視聴覚教育』VoL.31No. 7　（1977年７月号）
〔４９７〕「政治を革新し，社会を発展させる教育の力を」『国民教育』34号（1977年11月）
〔４９８〕「科学的精神とヒューマニズム」『教育』第 351号（1977年11月増刊号）
〔４９９〕「国民的教養の基礎としての学力について」『民研20年のあゆみ』（労働旬報社，1977年）
〔５００〕「視聴覚教育への反省と期待」『視聴覚教育』VoL.32No. 1（1978年１月号）
〔５０１〕「教育科学と教育計画」『北海道大学教育学部紀要』第31号（1978年３月）
〔５０２〕「国民的常識を養う普通教育」『別冊国民教育②新学習指導要領読本』（労働旬報社，1978年８月）
〔５０３〕「教育心理学の問題と研究法」（日本教育心理学会総会20周年特別講演，1978年９月

3日)『教育心理学年報』18集 (1979年)
〔504〕「新任教員研修のあり方を考える——教師による実践のための教育研究を——」『現代教育科学』第 260号 (1978年10月号)
〔505〕『教育科学七十年』(北海道大学図書刊行会, 1978年10月)
〔506〕「教育の革新への指導的役割」(宮原誠一氏追悼)『国民教育』38号 (1978年11月)
〔507〕「教材研究の重要性」『現代教育科学』第 266号 (1979年 4 月号)
〔508〕「映像による表現とその理解」『視聴覚教育』VoL.33No. 4, 378号 (1979年 4 月号)
〔509〕「人類の歴史と児童の権利」『別冊国民教育③子どもの権利』(労働旬報社, 1979年 5 月)
〔510〕「学習能力としての学力の評価について」坂野登編『講座日本の学力, 3 巻, 能力, 学力, 人格』(日本標準, 1979年 7 月)
〔511〕「提言:教育学部の将来に望む」1979年 6 月 6 日,『北海道大学教育学部創設30周年記念シンポジウムの記録』(北海道大学教育学部, 1979年 7 月)
〔512〕「高校教育の計画的研究について」『教育計画研究所紀要』創刊号 (正則学院, 1979年 9 月)
〔513〕「教育目的と指導目標による評価について」城戸幡太郎編『講座日本の学力, 2 巻 教育目標と評価』(日本標準, 1979年10月)
〔514〕編著『講座日本の学力, 2 巻, 教育目標と評価』(日本標準, 1979年10月)
〔515〕「戦前教科研と文部省研修所でのこと」(山田清人氏追悼)『国民教育』42号, (1979年11月)
〔516〕「(新春随想) 視聴覚教育への反省と期待」『視聴覚教育』VoL.34. No. 1, (1980年 1 月号)
〔517〕「日本心理学会創立の頃を省みて」日本心理学会編『日本心理学会五十年史〔第一部〕(金子書房, 1980年 2 月)
〔518〕『何のための教育か学校か』(情報センター出版局, 1980年 2 月)
〔519〕「基礎学力の意義と機能」『国立教育研究所研究集録』第 1 号 (1980年 3 月)
〔520〕『幼児教育への道』(フレーベル館, 1980年 4 月)
〔521〕「梅根君の仕事と意義」『国民教育』45号 (1980年 7 月)
〔522〕「学力の偏差とその指導」(初出不詳, 推定, 1980年前後) 再録, 城戸幡太郎著『教育心理学への反省と期待』(教育出版, 1981年 9 月)
〔523〕「言語・社会科分野でのテスト」(初出不詳, 推定, 1980年前後) 再録, 城戸幡太郎著『教育心理学への反省と期待』(教育出版, 1981年 9 月)
〔524〕「学力調査とその教育的意義」『教育計画研究所紀要』第 2 号 (正則学院, 1981年 1 月) (初出では教育計画研究所名, 再録『教育心理学への反省と期待』では城戸幡太郎名)
〔525〕「教科書編成への注文」『別冊国民教育④教科書問題』(労働旬報社, 1981年 7 月)
〔526〕『教育心理学への反省と期待』(米寿祝賀記念出版) (教育出版, 1981年 9 月)
〔527〕「わが国心理学の建設」『日本の心理学』刊行委員会編『日本の心理学』(日本文化学社, 1982年 2 月)

（註）

この著作・論文目録は，現在，鈴木秀一と廣川和市が本紀要に発表しつつある「城戸理論における学力概念」作成の過程で，作成されたものである。４３号の論文でも，１９５０年以降の，学力概念にかかわる著作，論文一覧を掲載したが，その後，城戸先生執筆の論文が，さらに多数見つかり，また，先生の還暦，八十歳祝賀，米寿を記念して出版された諸著作に附された城戸先生著作目録には，論文が収録されていないので，この際，できうる限り完全な城戸先生の御労作の目録を作成しておきたいという考えで，本著作・論文目録を作成したものである。古稀記念の「現代教育と創造性の開発」に収められた著作目録の作成の責任者世良正利氏は，「国立国会図書館で，現物と照合しながら作成」された由を述べておられるので，この態度をわれわれも踏襲し，上記の著作目録に洩れているものは，現物を確かめることに努めた。本目録に収められた著作，論文はしたがって，世良正利，石川春江，寺内札次郎各氏によって確認されたものと，廣川，鈴木によって確認されたものである。なお城戸先生の新聞や雑誌に寄稿されたエッセイ類は、城戸先生の研究の御発展の傍証ともなりうる珠玉のものが多いのであるが、世良氏たちの立場にならって割愛させていただいた。　(1984．1．23)